

〔特産化を目指したカキ新品種の栽培指針確立〕
結果母枝の角度がへたすきの発生程度に及ぼす影響

菊池知古・河野 章
(園芸技術科)

【要 約】 結果母枝の角度が上向きよりも水平または下向きになるよう整枝剪定することは、へたすき果の発生を軽減するのに有効である。

【目 的】

都育成の新品種「東京紅」は、生産圃場によってへたすき果の発生割合が異なり、その発生原因は定かでない。本試験では結果母枝の角度とへたすき果発生に関係に注目し、その関係を明らかにした。

【方 法】

灰色低地土圃場の5年生「東京紅」12樹を用いた。2009年5月12日に摘蕾を行ない、結果枝1本に1花とした。2009年5月18日に地表面に対し結果母枝の角度が -20° 、 0° 、 40° になるよう、結実している結果母枝をそれぞれ15本、19本、20本誘引した。

適期(果頂部がカラーチャート8に着色)に収穫し、へたすきの程度を目視により「0：なし、1：微、2：小、3：大(果樹研究所・育成系統適応性検定試験基準)」の4段階で評価した。

【成果の概要】

- 1) 果実が大きくなる品種では、果実肥大時にへたから果皮が剥離し、へたすき果の割合が多くなる。「東京紅」の果実重とへたすき程度を見ると、1果重が200g前後でも指数「3」の重度なへたすきが生じ、また逆に300g近くでも指数「0」でへたすきが生じない果実が認められた(図1)。
- 2) 種子が入った果実部分は肥大が良く、部分的にへたすきが生じやすい。「東京紅」の含核数とへたすき程度を見ると、含核数が多い方が指数「3」の重度なへたすきを生じやすい傾向にあるが、含核数が多くても指数「0、1」の果実も多く見られた(図2)。
- 3) 結果母枝の角度と「東京紅」の果実品質を見ると、角度に関わらず1果重および含核数は同等であったが、角度 40° でややへたすき指数が高く糖度が低くなった(表1)。
- 4) 結果母枝の角度と「東京紅」のへたすき程度を見ると、今年度は指数「2、3」の重度なへたすき果が少なかった。指数「3」の重度なへたすき果は角度 40° でのみ発生し、また指数「0」の健全果は角度 -20° 、 0° で多かった(図3)。
- 5) まとめ：以上の結果から、結果母枝の角度が上向きよりも水平または下向きになるよう整枝剪定することは、へたすき果の発生を軽減するのに有効である。
- 6) 今後の課題：今回はカキノヘタムシガが多発し、カキ全般で生育後期の落果が著しく、年度としてのへたすき果発生状況が正確に把握できなかった。今回は単年度の結果であるため、暫定値として栽培マニュアルを作成し、今後補足として測定を続ける。

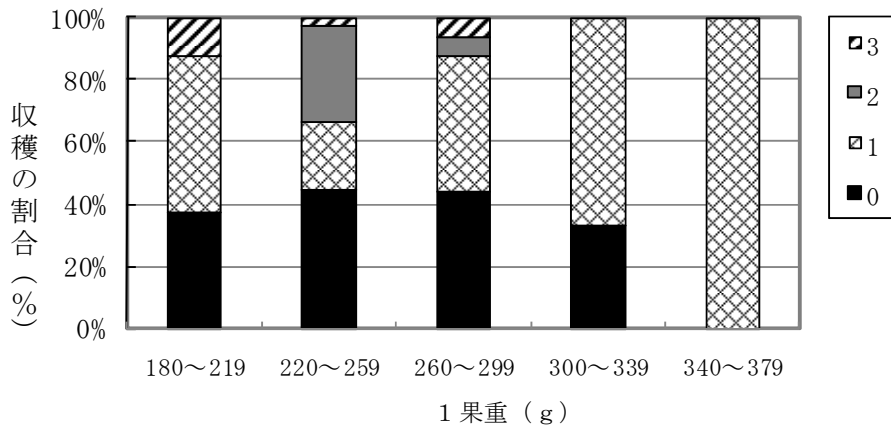


図1 果実重とへたすき程度の関係

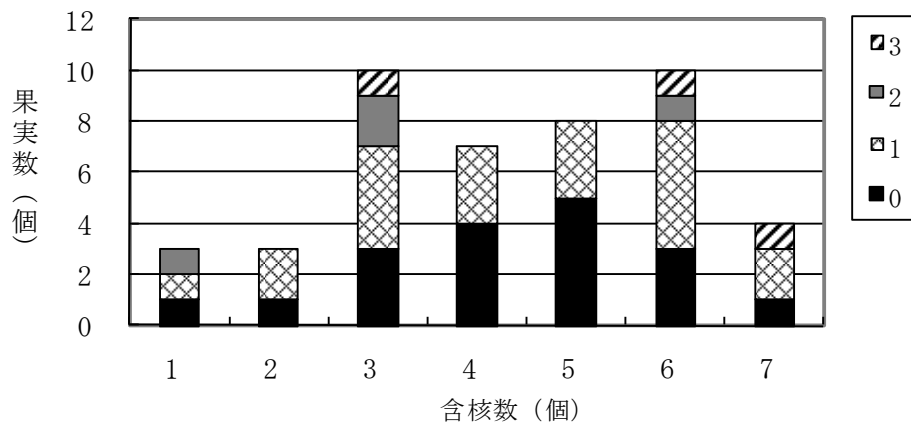


図2 含核数とへたすき程度の関係

表1 結果母枝角度別の「東京紅」果実品質

結果母枝角度 (度)	1果重 (g)	含核数 (個)	へたすき指数	糖度 (Brix%)
-20	249.7	4.4	0.5	18.8
0	257.4	4.3	0.4	19.1
40	259.2	4.3	0.9	18.0

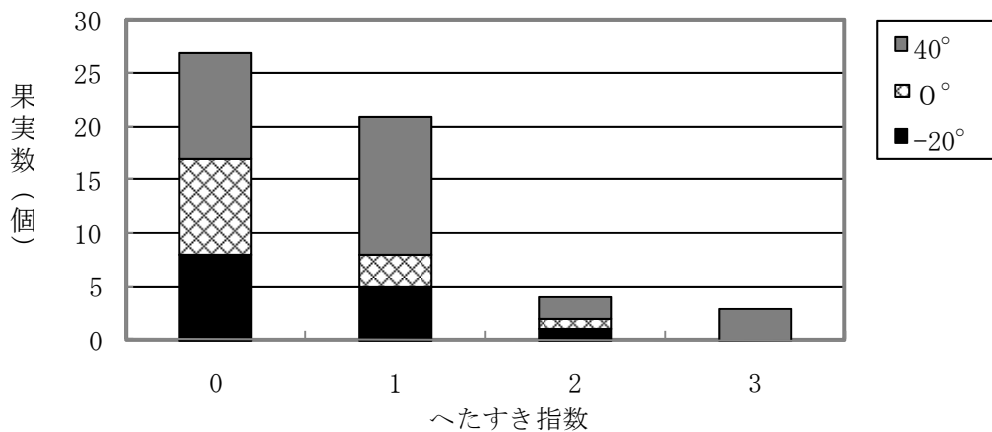


図3 結果母枝の角度とへたすき程度の関係
(0:なし 1:微 2:小 3:大)

